株式会社 大気社

2027 年 3 月期　中間期決算説明会

2026 年 11 月 13 日

イベント概要

[企業名]	株式会社 大気社
[企業 ID]	1979
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2027 年 3 月期　中間期決算説明会
[決算期]	2026 年度　第 2 四半期
[日程]	2026 年 11 月 13 日
[ページ数]	46
[時間]	14:00 – 14:53 （合計：53 分、登壇：26 分、質疑応答：27 分）
[開催場所]	インターネット配信
[会場面積]	
[出席人数]	
[登壇者]	6 名

代表取締役社長執行役員	長田　雅士（以下、長田）
代表取締役副社長執行役員	中島　靖　（以下、中島）
環境システム事業部長	祖父江　正（以下、祖父江）
塗装システム事業部長	福永　卓司（以下、福永）

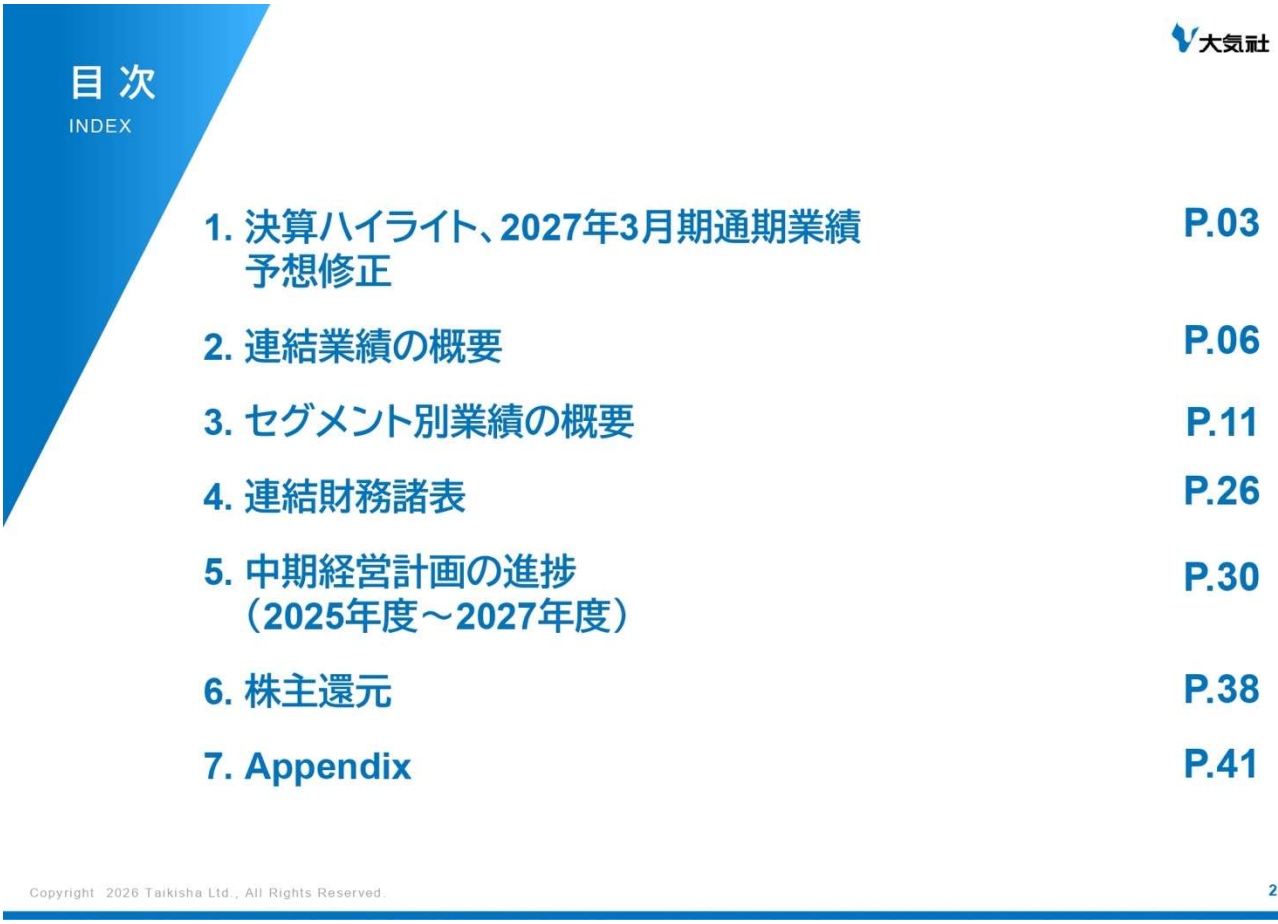
	経営企画本部長	松田　吉弘（以下、松田）
	管理本部長	竹下　誠司（以下、竹下）

[アナリスト名]*	SMBC 日興証券	川嶋　宏樹
	大和証券	寺岡　秀明
	モルガン・スタンレーMUFG 証券	八木　亮
	みずほ証券	中川　義裕
	JP モルガン証券	濱川　友吾

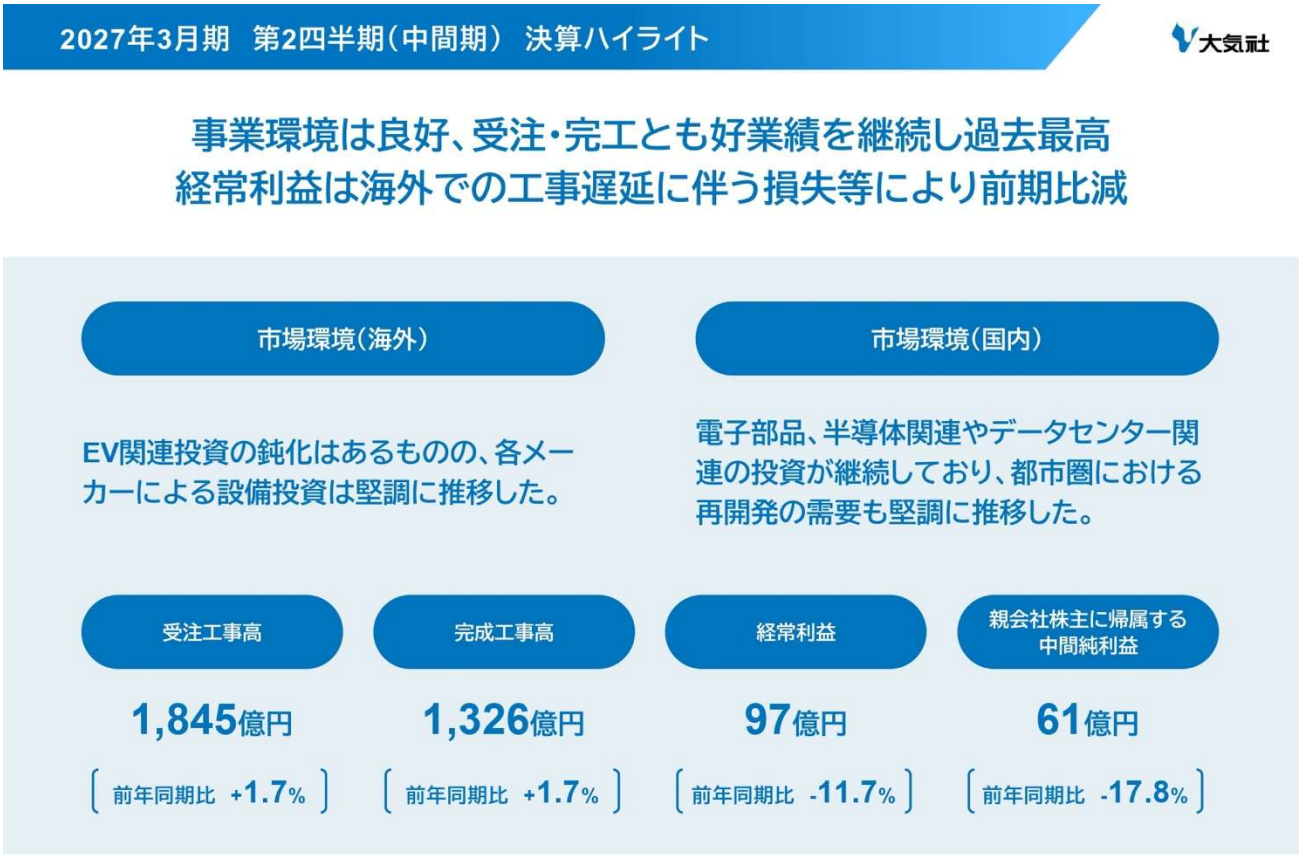
目 次
INDEX

1. 決算ハイライト、2027年3月期通期業績予想修正 P.03
2. 連結業績の概要 P.06
3. セグメント別業績の概要 P.11
4. 連結財務諸表 P.26
5. 中期経営計画の進捗（2025年度～2027年度） P.30
6. 株主還元 P.38
7. Appendix P.41

Copyright 2026 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.



長田：社長の長田でございます。本日は、当社の決算説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。私のほうからは、2027 年 3 月期、第 2 四半期の決算ハイライトおよび通期業績予想の修正、連結業績の概要についてご説明したいと思います。



最初に、第 2 四半期の業績についてご説明いたします。市場環境については、まず海外市場ですけれども、EV 関連投資の鈍化はございましたが、それ以外各メーカーによる設備投資は堅調に推移しております。一方国内市場では、電子部品、半導体関連、そしてデータセンター関連の投資が継続しております。都市圏における再開発の需要も堅調に推移しております。当社事業との関連で申し上げますと、特に環境システム事業では、お客様からの工事の引き合いが強く、施工キャパシティーを考えながら受注する状況が続いております。

このような市場環境を受けまして、受注工事高は 1,845 億円と、第 2 四半期時点の過去最高、完成工事高についても 1,326 億円と、これも過去最高となりました。一方、経常利益につきましては、塗装システム事業において海外プロジェクトの遅延に伴う遅延損害金を計上いたしましたことなどから、前年同期比減の 97 億円となりました。

2027年3月期　通期業績予想の修正

大気社

受注工事高は、環境システム事業国内で複数の中・大型案件を見込み増加
完成工事高は、受注増額分が当期にも一部寄与し増加
利益は、環境システム事業で増加の一方、
塗装システム事業では遅延損害金・収益改善の見込み低下により減少

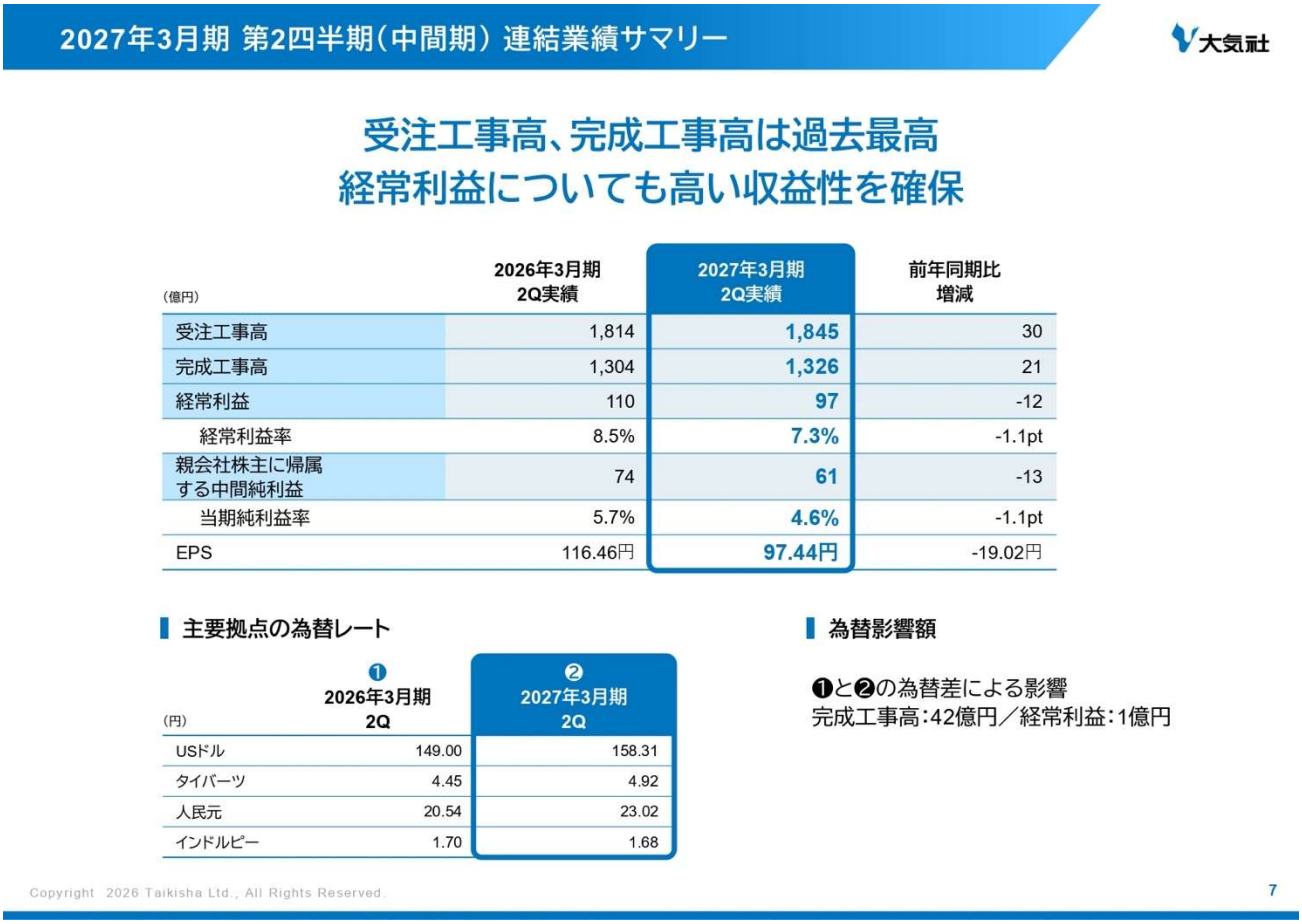
（億円）	2027年3月期 新予想 通期	2027年3月期 期初予想 通期	予想比差異 通期
受注工事高	3,500	3,305	195
完成工事高	3,120	3,070	50
営業利益	238	238	-
経常利益	250	250	-
親会社株主に帰属する当期純利益	180	180	-

Copyright 2026 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

このような事業環境を踏まえて、通期業績予想の修正を行いました。

受注工事高については、環境システム事業の、国内において、下期においても複数の中・大型案件を見込んでおりますので、期初予想を上方修正いたしました。完成工事高については、環境システム事業の受注増が当期の出来高に一部寄与する見込みでございますので、上方修正をいたしました。

利益については、環境システム事業では、手持ち工事の堅調な利益改善が期待でき、増加を見込みますが、一方塗装システム事業では、第２四半期時点で海外プロジェクトでの遅延損害金を工事原価に計上したことで、予想を下回る見通しとなっております。両事業の状況を踏まえ、全体利益については期初予想を据え置いております。セグメントごとの内訳については、この後、管理本部長の竹下からご説明いたします。



続きまして、連結業績の概要をご説明いたします。

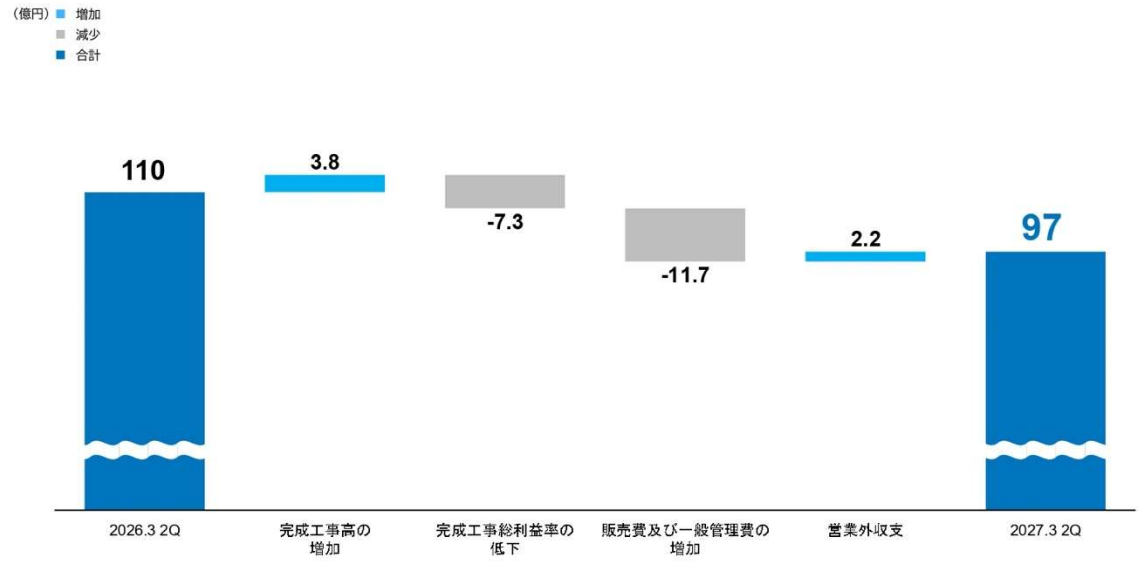
繰り返しとなりますけれども、全体の受注工事高は 1,845 億円、完成工事高は 1,326 億円、経常利益は 97 億円となりました。完成工事高につきましては、国内・海外において豊富な手持ち工事の工事進捗が寄与しました。セグメントごとの内訳については、後ほど管理本部長の竹下からご説明いたします。また、当社の主要拠点の為替レートと為替影響額について、スライドの下のほうに記載しておりますので、ご参照ください。

2027年3月期 第2四半期（中間期）経常利益の増減要因

大気社

完成工事高は増加したものの、販管費の増加や完成工事利益率の低下により経常利益は減少

経常利益の主な増減要因（前年同期比）



Copyright 2026 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

8

当ページでは、2027 年 3 月期上期の経常利益の増減要因を記載しております。完成工事高は増加したものの、人件費や成長投資を中心とした販売管理費の増加および、塗装システム事業の採算性低下により、経常利益は 97 億円となりました。

2027年3月期業績予想

大気社

受注工事高・完成工事高を上方修正

通期業績予想

(億円)	2026年3月期 実績 上期	2026年3月期 実績 下期	2026年3月期 実績 通期	2027年3月期 予想 上期実績	2027年3月期 予想 下期	2027年3月期 予想 通期※	2027年3月期 期初予想 通期	予想比 差異 通期
受注工事高	1,814	1,703	3,517	1,845	1,654	3,500	3,305	195
完成工事高	1,304	1,556	2,861	1,326	1,793	3,120	3,070	50
営業利益	104	128	233	89	148	238	238	-
経常利益	110	137	247	97	152	250	250	-
親会社株主に帰属する当期純利益	74	81	155	61	118	180	180	-
ROE			10.1%			11.0%	11.0%	-

※ 中間期決算時に修正

主要拠点の為替レート

(円)	2026年3月期 実績	2027年3月期 想定
USドル	150.42	148.00
タイバーツ	4.57	4.92
人民元	20.94	20.80
インドルピー	1.71	1.68

為替変動による影響額

2027年3月期業績予想において、全為替レートが1%変動した場合の影響額
完成工事高：16億円／経常利益：0.7億円

Copyright 2026 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

9

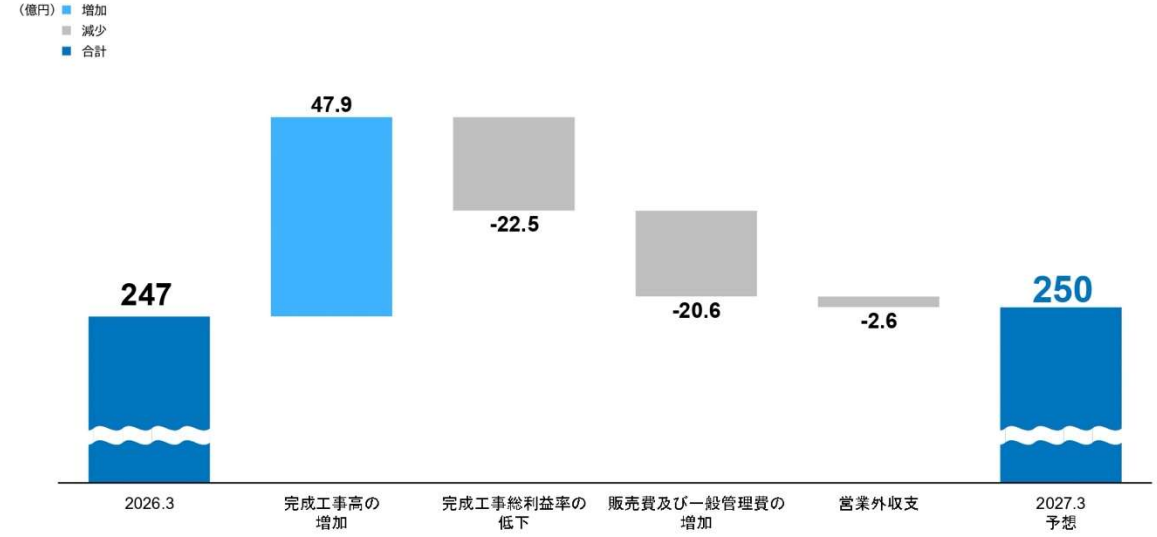
続きまして、2027 年 3 月期通期の業績予想について、改めてご説明します。受注工事高については、前期を上回った上期に引き続き、下期にも複数の中・大型案件の受注を見込むため、3,500 億円となる見通しです。完成工事高については、当期において計画を上回る受注を獲得できる見通しで、その一部が下期中に出来高として寄与することから、3,120 億円を見込んでおります。利益につきましては、環境システム事業について上方修正、塗装システム事業については下方に見直しておりますが、全社での予想は 250 億円から変更しておりません。

2027年3月期業績予想（経常利益予想の増減要因）

大気社

塗装システム事業の採算低下、全体での販管費増はあれど、前期比では完成工事高の増加による増益を見込む

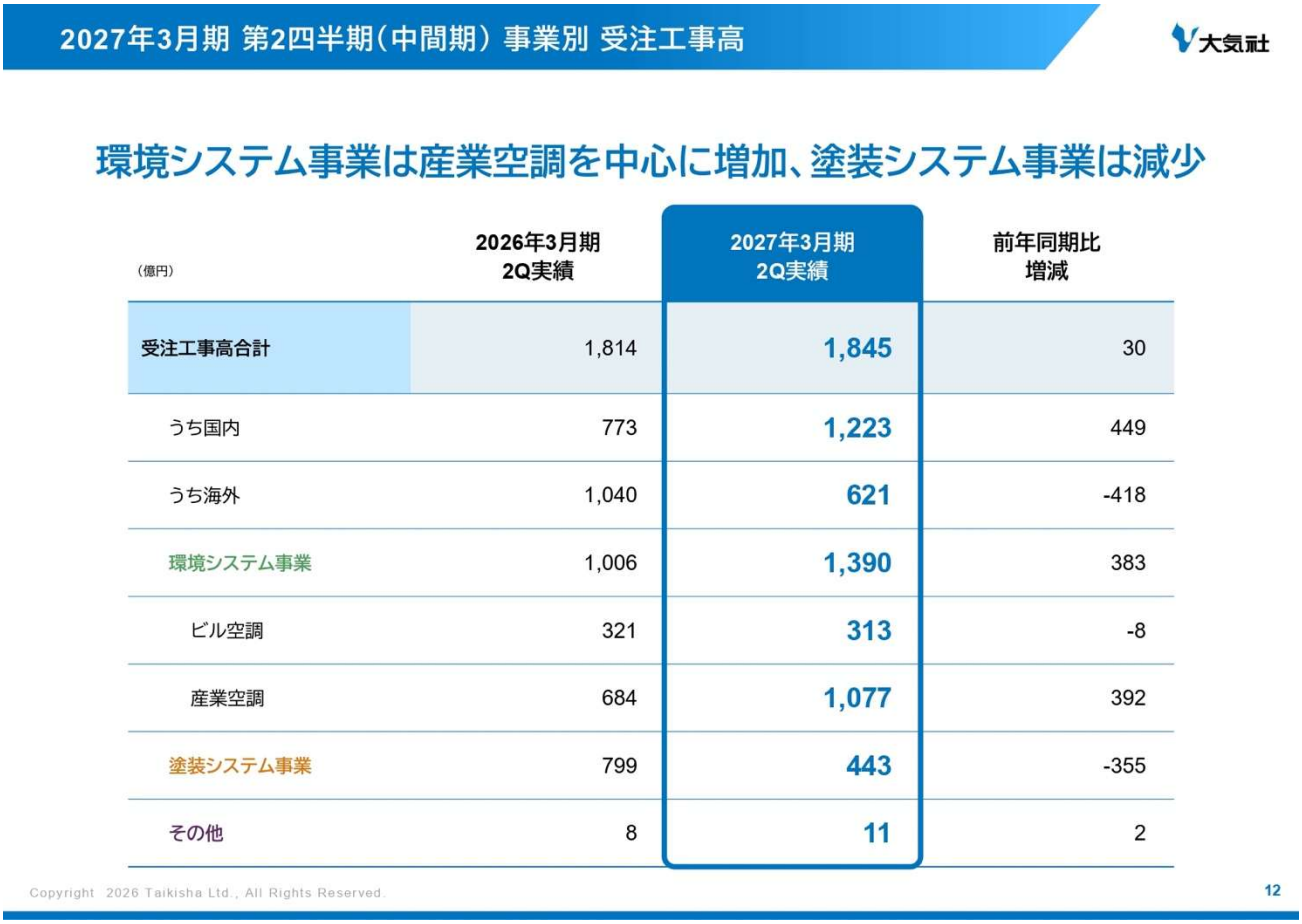
経常利益予想の主な増減要因（前期比）



Copyright 2026 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

10

当ページでは、2027 年 3 月期の経常利益予想の増減要因を記載しております。私からのご説明は以上となります。



竹下：管理本部長の竹下です。当ページからは、セグメント別の業績の概要についてご説明いたします。

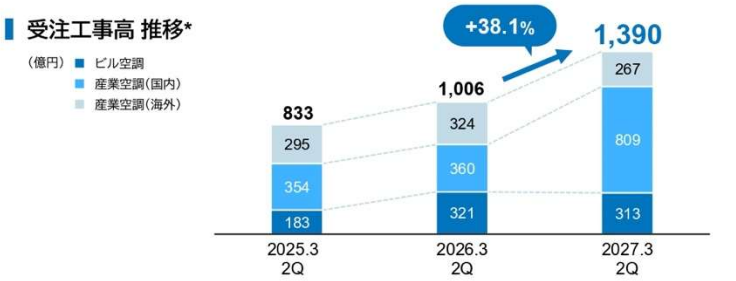
ここからは 2027 年 3 月期第 2 四半期の、事業別の業績についてご説明いたします。当ページは事業別の受注工事高を前年同期比で記載しています。環境システム事業は、前年から 383 億増加し、1,390 億。それから塗装システム事業は 355 億減少し、443 億。その他は 11 億となりました。次のページから、事業ごとの内訳についてご説明をいたします。

2027年3月期 第2四半期（中間期）環境システム事業 受注工事高

大気社

国内産業空調において電子部品・半導体分野がけん引し、前年同期比で増加

（億円）	2026年3月期 2Q実績	2027年3月期 2Q実績	前年同期比 増減
環境システム事業　受注工事高	1,006	**1,390**	383
ビル空調	321	**313**	-8
産業空調	684	**1,077**	392
うち国内	360	**809**	448
うち海外	324	**267**	-56
海外比率	32.2%	**19.3%**	-13.0pt



※ 2025年3月期は、セグメント区分変更前の数値。

Copyright 2026 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

13

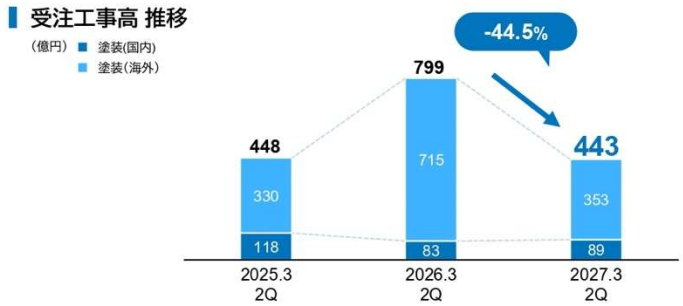
当ページは、環境システム事業の受注工事高の内訳を、前年同期比で記載しています。環境システム事業の受注高、1,390 億円のうち、ビル空調は前年とほぼ同じ 313 億円、産業空調は 392 億円増加し、1,077 億円となりました。特に国内の産業空調において、電子部品・半導体分野の受注が堅調に推移しました。

2027年3月期 第2四半期（中間期） 塗装システム事業 受注工事高

大気社

海外大型案件の剥落により前期比で減少

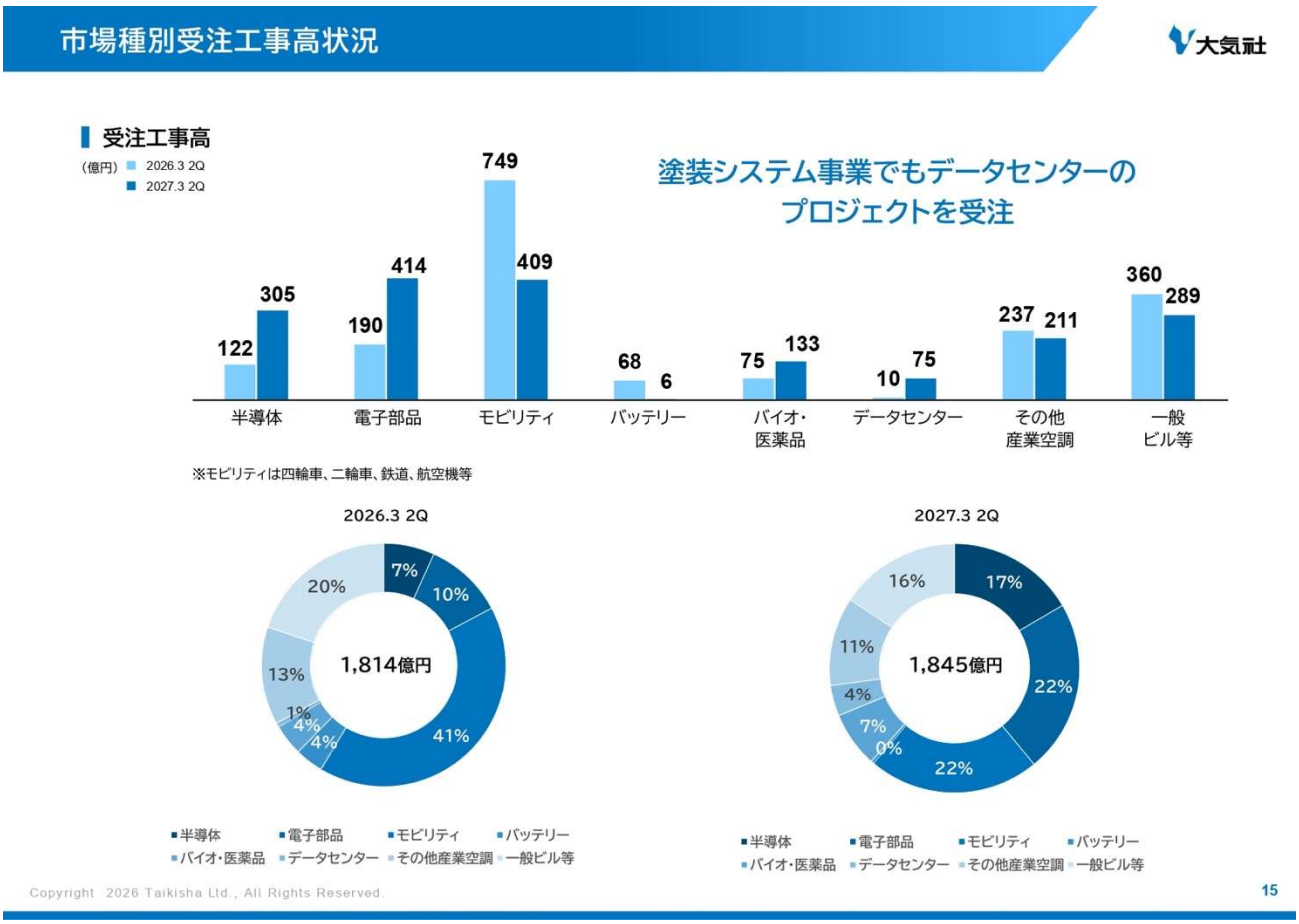
（億円）	2026年3月期 2Q実績	2027年3月期 2Q実績	前年同期比 増減
塗装システム事業 受注工事高	799	443	-355
うち国内	83	89	6
うち海外	715	353	-361
海外比率	89.6%	79.8%	-9.8pt



Copyright 2026 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

14

当ページは、塗装システム事業の受注工事高の内訳を前年同期比で記載しています。塗装システム事業全体の受注高は、昨年の海外の大型案件が剝落したことで減少し、443 億円となりました。



当ページは、市場種別の受注工事高の内訳を記載しています。

AI の受注拡大に伴い、当社の主力である電子部品分野を中心に受注が大幅に増加しました。モビリティ分野では、環境システム事業と塗装システム事業が共同施工という形で海外プロジェクトを受注しています。またデータセンター分野では、塗装システム事業において初めて数十億円規模のプロジェクトを受注しました。2 つの事業のお互いの強みを生かした協業が進んで、新たな受注獲得につながっています。

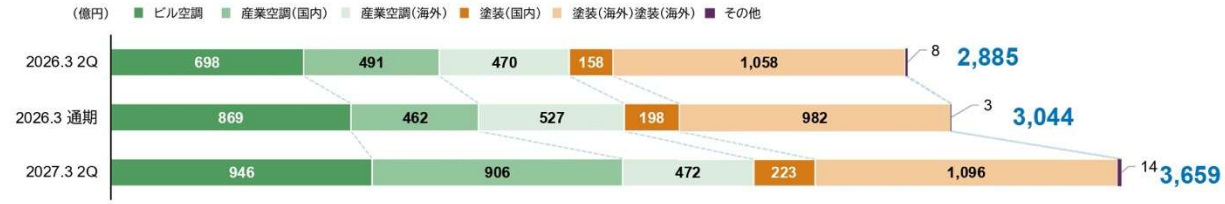
2027年3月期 第2四半期（中間期）事業別 繰越工事高

大気社

受注工事高の増加により
繰越工事高も過去最高

（億円）	2026年3月期2Q A	2026年3月期通期 B	2027年3月期2Q C	増減 C−A
受注工事高	1,814	3,517	1,845	30
完成工事高	1,304	2,861	1,326	21
繰越工事高	2,885	3,044	3,659	773
環境システム事業	1,659	1,859	2,324	664
ビル空調	698	869	946	248
産業空調	961	990	1,378	416
塗装システム事業	1,217	1,181	1,320	102
その他	8	3	14	6

事業別繰越工事高の内訳



Copyright 2026 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

16

当ページは、前期の上期、それから前期通期、それから今期上期の、事業別の繰越工事高を記載しています。

環境システム事業、塗装システム事業共に手持ち案件が積み上がっており、2026 年 3 月期の 3,044 億円より増加し、過去最高の 3,659 億円となりました。特に事業環境が良好な国内産業空調の繰越工事高が大幅に伸びております。

2027年3月期 第2四半期（中間期）事業別 完成工事高・経常利益

大気社

環境システム事業は増収増益、塗装システム事業は減収減益

（億円）	2026年3月期 2Q実績	2027年3月期 2Q実績	前年同期比 増減
完成工事高合計	1,304	1,326	21
うち国内	708	666	-42
うち海外	595	660	64
環境システム事業	862	944	82
ビル空調	180	231	51
産業空調	681	712	30
塗装システム事業	434	374	-59
その他	8	7	-0
経常利益合計	110	97	-12
経常利益率	8.5%	7.3%	-1.1pt
環境システム事業	97	108	10
経常利益率	11.4%	11.5%	0.1pt
塗装システム事業	7	-14	-21
経常利益率	1.7%	-3.8%	-5.6pt
その他	-0	-1	-1
経常利益率	-9.5%	-24.6%	-15.1pt

Copyright 2026 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

17

当ページは、事業別の完成工事高と経常利益を前年同期比でまとめています。

環境システム事業は、完成工事高 944 億円、経常利益 108 億円で増収増益となりました。塗装システム事業は、完成工事高 374 億円、経常損失が 14 億円で、減収減益となりました。その他セグメントは、完成工事高 7 億円、経常利益マイナス 1 億円と、ほぼ横ばいでございます。

次のページから、事業ごとの内訳についてご説明をします。

2027年3月期 第2四半期（中間期）環境システム事業 完成工事高・経常利益

大気社

ビル空調・産業空調ともに完成工事高が増加
経常利益は上期での過去最高を更新

（億円）	2026年3月期 2Q実績	2027年3月期 2Q実績	前年同期比 増減
環境システム事業　完成工事高	862	**944**	82
ビル空調	180	**231**	51
産業空調	681	**712**	30
うち国内	412	**362**	-50
うち海外	269	**350**	81
海外比率	31.2%	**37.1%**	5.9pt
環境システム事業　経常利益	97	**108**	10
経常利益率	11.4%	**11.5%**	0.1pt

完成工事高・経常利益 推移※



※ 2025年3月期は、セグメント区分変更前の数値。

Copyright 2026 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

18

当ページは、環境システム事業の完成工事高と、経常利益をセグメント別に前年同期比で記載しています。

完成工事高については、ビル空調、産業空調共に、手持ち工事が順調に進捗したことで増加し、前年より 82 億円増の 944 億円となりました。次に経常利益については、主に増収効果により増加し、上期として過去最高の 108 億円となりました。

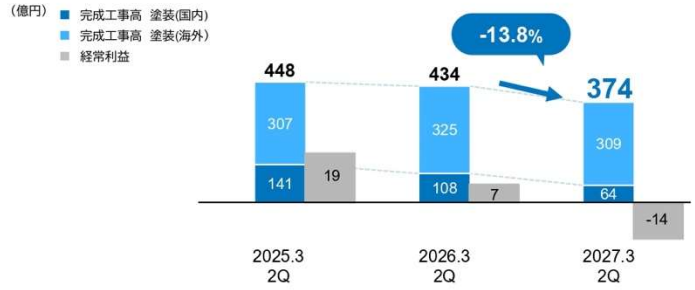
2027年3月期 第2四半期（中間期） 塗装システム事業 完成工事高・経常利益

大気社

大型プロジェクトの端境期となり、国内・海外で減収
減収と海外プロジェクトでの採算性低下により、減益

（億円）	2026年3月期 2Q実績	2027年3月期 2Q実績	前年同期比 増減
塗装システム事業　完成工事高	434	374	-59
うち国内	108	64	-43
うち海外	325	309	-16
海外比率	75.1%	82.8%	7.7pt
塗装システム事業　経常利益	7	-14	-21
経常利益率	1.7%	-3.8%	-5.6pt

■ 完成工事高・経常利益 推移



Copyright 2026 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

19

当ページは、塗装システム事業の完成工事高と経常利益を前年同期比で記載しています。

まず、完成工事高は、国内は前期比 43 億円減の 64 億円、海外は前期比 16 億円減の 309 億円となりました。国内では、前年のような大型プロジェクトによる完工が少なかったこと、海外も同様に欧州以外の大型プロジェクトの端境期にあったということから、若干の減となりました。次に、経常利益は、完成工事高の減少および、先ほど長田からご説明した海外プロジェクトの遅延損害金等を含めた採算性の低下のため、前年同期比 21 億円減の 14 億円の経常損失となりました。

2027年3月期業績予想 事業別 受注工事高

大気社

環境システム事業で増加、塗装システム事業で減少を見込む

(億円)	2026年3月期 実績 上期	2026年3月期 実績 下期	2026年3月期 実績 通期	2027年3月期 新予想 上期実績	2027年3月期 新予想 下期	2027年3月期 新予想 通期※	2027年3月期 期初予想 通期	予想比 差異 通期
受注工事高合計	1,814	1,703	3,517	1,845	1,654	3,500	3,305	195
うち国内	773	888	1,662	1,223	695	1,919	1,724	195
うち海外	1,040	814	1,854	621	959	1,581	1,581	-
環境システム事業	1,006	1,138	2,145	1,390	1,114	2,505	2,310	195
ビル空調	321	449	771	313	226	540	470	70
産業空調	684	688	1,373	1,077	887	1,965	1,840	125
塗装システム事業	799	552	1,351	443	526	970	970	-
その他	8	11	20	11	13	25	25	-

※ 中間期決算時に修正

Copyright 2026 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

20

ここからは、2027 年 3 月期業績予想について、セグメント別にご説明をいたします。当ページは、2027 年 3 月期の受注工事高の内訳を示しております。

2027年3月期業績予想 環境システム事業 受注工事高

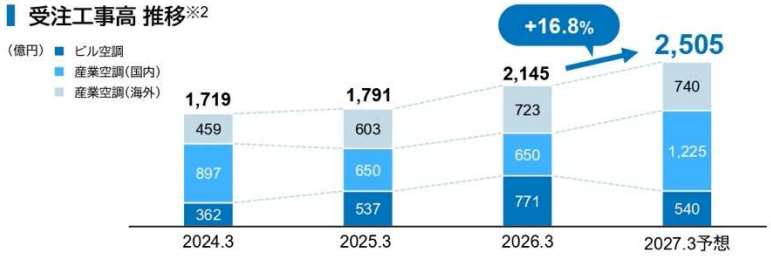
大気社

AIの需要拡大による、国内の電子部品・半導体・データセンター需要を積極的に取り込み、前期比で大幅増

(億円)	2026年3月期 実績 上期	2026年3月期 実績 下期	2026年3月期 実績 通期	2027年3月期 新予想 上期実績	2027年3月期 新予想 下期	2027年3月期 新予想 通期※1	2027年3月期 期初予想 通期	予想比差異 通期
環境システム事業 受注工事高	1,006	1,138	2,145	1,390	1,114	2,505	2,310	195
ビル空調	321	449	771	313	226	540	470	70
産業空調	684	688	1,373	1,077	887	1,965	1,840	125
うち国内	360	290	650	809	415	1,225	1,100	125
うち海外	324	398	723	267	472	740	740	-
海外比率	32.2%	35.0%	33.7%	19.3%	42.3%	29.5%	32.0%	-2.5pt

※1 中間期決算時に修正

受注工事高 推移※2



※2 2024年3月期および2025年3月期は、セグメント区分変更前の数値。

Copyright 2026 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

21

当ページは環境システム事業の受注工事高の前年実績と、今期の上期の実績および、通期予想を記載しております。

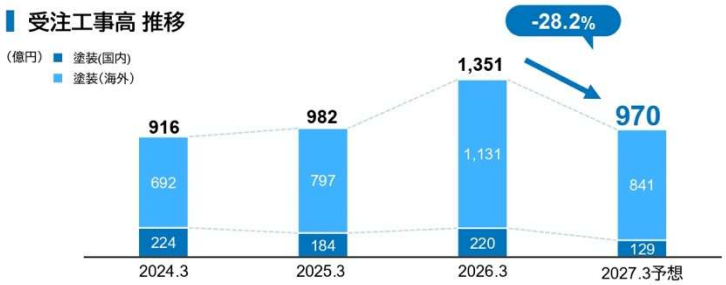
市場環境の見通しについては、国内外において AI 需要拡大を背景に、電子部品・半導体・データセンター分野で、引き続き設備投資が継続すると見込んでいます。また国内のオフィスビル事業は、都市圏を中心に底堅く推移すると見込んでいます。今期の環境システム事業全体におきましては、特に国内の堅調な需要を取り込むことで、2,505 億の受注を見込んでおります。

2027年3月期業績予想 塗装システム事業 受注工事高

大気社

海外大型プロジェクト受注の剥落により前期比減となるも、受注は好調を維持

(億円)	2026年3月期 実績 上期	下期	通期	2027年3月期 予想 上期実績	下期	通期
塗装システム事業 受注工事高	799	552	1,351	443	526	970
うち国内	83	136	220	89	39	129
うち海外	715	415	1,131	353	487	841
海外比率	89.6%	75.2%	83.7%	79.8%	92.5%	86.7%

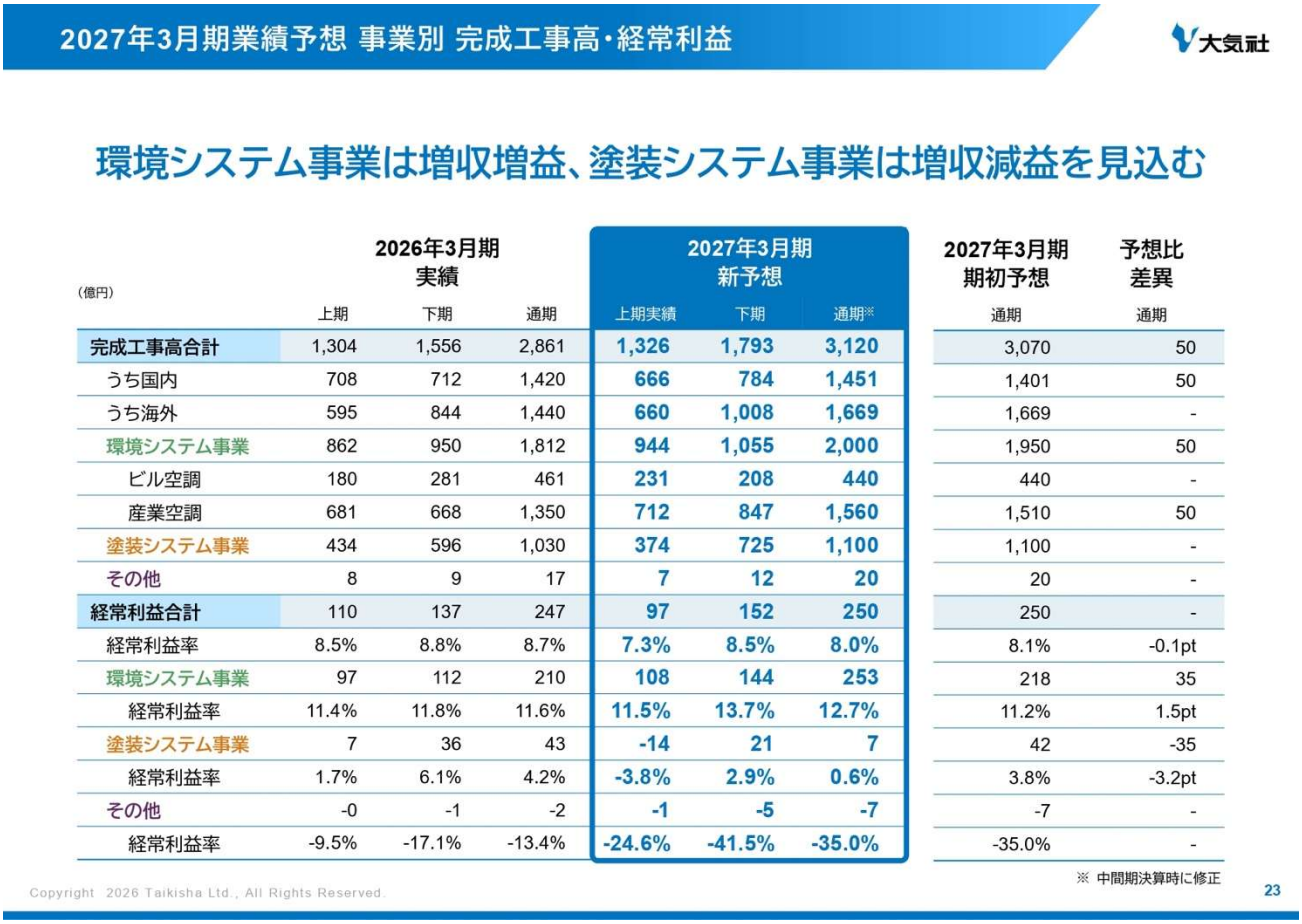


Copyright 2026 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

22

当ページは、塗装システム事業の受注工事高の前期実績と、今期上期実績および、通期の予想を記載しています。

市場環境の見通しについては、自動車メーカーに関しては、インドなどでは新規投資が見込まれており、需要は底堅く推移すると想定しています。今期の塗装システム事業では、970 億円の受注を見込んでおり、予想の修正はございません。



当ページは、2027 年 3 月期の完成工事高および経常利益の予想を記載しています。

完成工事高は、環境システム事業で 2,000 億円、塗装システム事業で 1,100 億円、その他で 20 億円を見込んでいます。経常利益については、環境システム事業で 253 億円、塗装システム事業で 7 億円、その他でマイナス 7 億円を見込んでいます。

2027年3月期業績予想 環境システム事業 完成工事高・経常利益

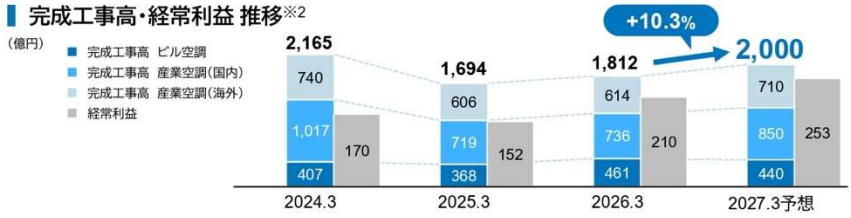
大気社

国内産業空調が完成工事高・経常利益をけん引

(億円)	2026年3月期 実績 上期	2026年3月期 実績 下期	2026年3月期 実績 通期	2027年3月期 新予想 上期実績	2027年3月期 新予想 下期	2027年3月期 新予想 通期※1	2027年3月期 期初予想 通期	予想比差異 通期
環境システム事業 完成工事高	862	950	1,812	**944**	**1,055**	**2,000**	1,950	50
ビル空調	180	281	461	**231**	**208**	**440**	440	-
産業空調	681	668	1,350	**712**	**847**	**1,560**	1,510	50
うち国内	412	323	736	**362**	**487**	**850**	800	50
うち海外	269	345	614	**350**	**359**	**710**	710	-
海外比率	31.2%	36.3%	33.9%	**37.1%**	**34.1%**	**35.5%**	36.4%	-0.9pt
環境システム事業 経常利益	97	112	210	**108**	**144**	**253**	218	35
経常利益率	11.4%	11.8%	11.6%	**11.5%**	**13.7%**	**12.7%**	11.2%	1.5pt

※1 中間期決算時に修正

完成工事高・経常利益 推移※2



※2 2024年3月期および2025年3月期は、セグメント区分変更前の数値。

Copyright 2026 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

24

当ページは、環境システム事業の完成工事高と、経常利益の前期実績、今期上期実績および通期予想を記載しています。

下期にかけて国内産業空調を中心とした手持ち案件の進捗を見込んでいます。なお、期末に向けて、手持ち工事の堅調な利益改善を見込み、下期の経常利益を 144 億円と予想しております。

2027年3月期業績予想 塗装システム事業 完成工事高・経常利益

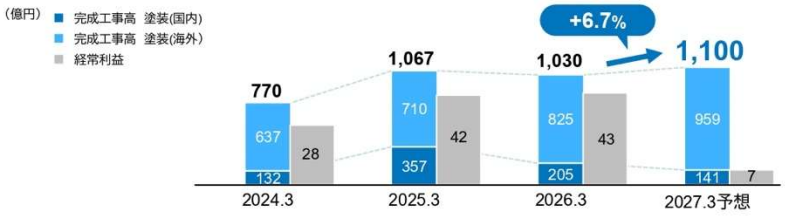
大気社

海外の大型プロジェクトが下期の完成工事高・利益に寄与

(億円)	2026年3月期 実績 上期	2026年3月期 実績 下期	2026年3月期 実績 通期	2027年3月期 新予想 上期実績	2027年3月期 新予想 下期	2027年3月期 新予想 通期※	2027年3月期 期初予想 通期	予想比差異 通期
塗装システム事業 完成工事高	434	596	1,030	374	725	1,100	1,100	-
うち国内	108	96	205	64	76	141	141	-
うち海外	325	499	825	309	649	959	959	-
海外比率	75.1%	83.8%	80.1%	82.8%	89.5%	87.2%	87.2%	-
塗装システム事業 経常利益	7	36	43	-14	21	7	42	-35
経常利益率	1.7%	6.1%	4.2%	-3.8%	2.9%	0.6%	3.8%	-3.2pt

※ 中間期決算時に修正

完成工事高・経常利益 推移



Copyright 2026 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

25

当ページは、塗装システム事業の完成工事高と、経常利益の前期実績、今期上期実績および通期予想を記載しています。

完成工事高は、下期にかけて海外で大型案件が進捗し、1,100 億円となる見通しです。経常利益については 7 億円を見込んでいます。

損益計算書

大気社

（億円）	2025年3月期 2Q	2026年3月期 2Q	2027年3月期 2Q
完成工事高	1,146	1,304	1,326
完成工事総利益	179	241	238
完成工事総利益率	15.7%	18.5%	18.0%
営業利益	62	104	89
営業利益率	5.5%	8.0%	6.7%
経常利益	70	110	97
経常利益率	6.2%	8.5%	7.3%
親会社株主に帰属する中間純利益	56	74	61
当期純利益率	4.9%	5.7%	4.6%



Copyright 2026 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

当ページからは、連結財務諸表のご説明をいたします。当ページは損益計算書になります。ご参照ください。

貸借対照表

大気社

(億円) 科目	2026年3月期	2027年3月期2Q	増減
流動資産	2,173	1,988	-185
現金預金	906	671	-235
受取手形・完成工事未収入金等	1,128	1,000	-128
有価証券	-	30	30
未成工事支出金及び材料貯蔵品	34	42	8
その他	117	256	139
貸倒引当金	-13	-12	1
固定資産	694	833	138
有形固定資産	135	132	-2
のれん	9	9	-0
その他無形固形資産	13	13	0
投資有価証券	329	435	105
繰延税金資産	9	6	-2
その他	198	237	38
貸倒引当金	-1	-1	0
資産合計	2,868	2,821	-46

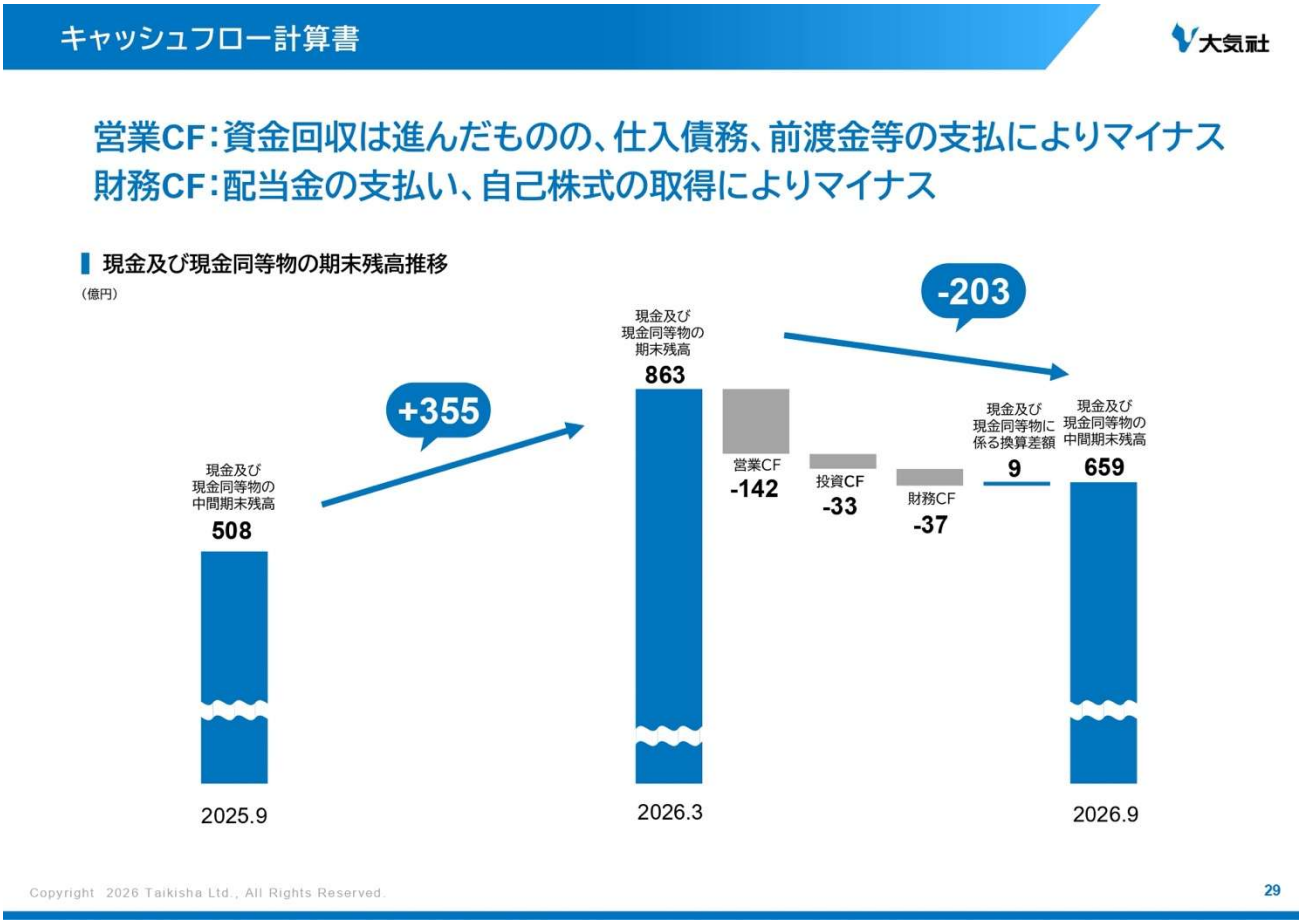
科目	2026年3月期	2027年3月期2Q	増減
流動負債	1,021	840	-180
支払手形・工事未払金等	440	348	-92
短期借入金	12	29	16
未成工事受入金	274	261	-13
工事損失引当金	7	8	0
その他	286	194	-92
固定負債	144	191	46
負債合計	1,165	1,032	-133
純資産	1,702	1,789	87
資本金	64	64	-
資本剰余金	36	32	-4
利益剰余金	1,197	1,214	16
自己株式	-10	-20	-9
その他有価証券評価差額金	165	215	49
繰延ヘッジ損益	0	-0	-0
為替換算調整勘定	113	119	5
退職給付に係る調整累計額	41	67	25
非支配株主持分	92	95	3
負債純資産合計	2,868	2,821	-46

Copyright 2026 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

28

当ページは、連結の貸借対照表を掲載しています。

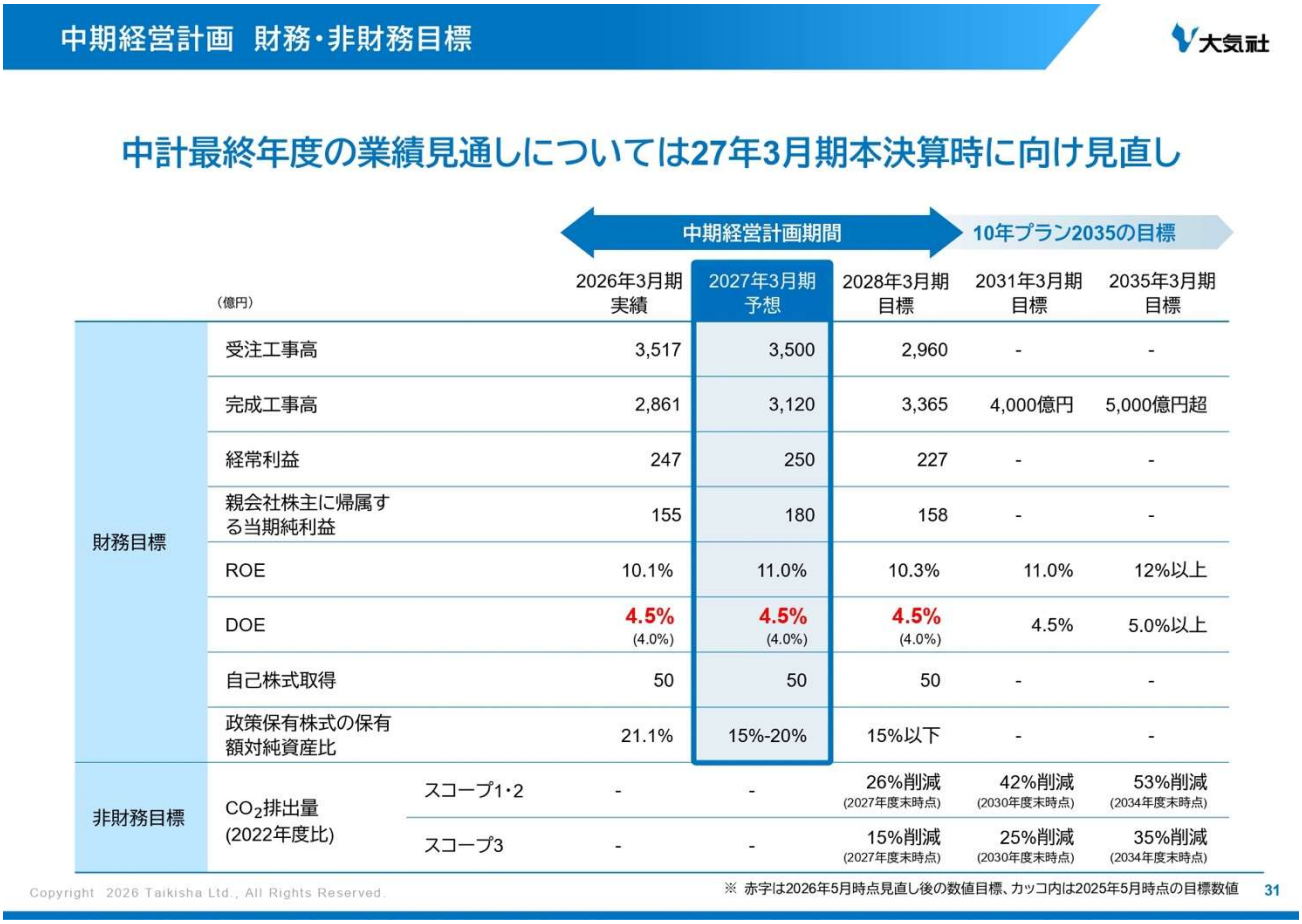
現預金については、期末配当金の支払い等により、2026 年 3 月末から減少しております。投資有価証券については、2026 年 3 月期から続く株高の影響によって増加しております。



当ページは、連結のキャッシュフロー計算書を記載しています。

2027 年 3 月期、第 2 四半期の現金および現金同等物の期末残高は、2026 年 3 月末より 203 億円減少し、659 億円となりました。営業キャッシュフローは、資金回収が進んだものの、仕入債務、それから前渡し金等の支払いによって、142 億円のマイナスとなりました。財務キャッシュフローは、配当金の支払いや自己株式の取得により、37 億円のマイナスとなりました。

私からの説明は以上です。



松田：経営企画本部長の松田です。ここからは、中期経営計画の進捗を説明させていただきます。

当ページは、2028 年 3 月期までの中期経営計画の財務・非財務目標について記載しています。中計最終年度の目標について、完成工事高に関しては、足元の繰越工事高に鑑みても、目標を達成できる可能性は高いと考えておりますが、財務目標全体の見直しについては、27 年 3 月期本決算時にお示ししたいと考えております。

中期経営計画　投資計画

大気社

中期経営計画期間は、合計380億円実施

	2027年3月期第2四半期までの主な実施内容	2027年3月期 第2四半期までの実績	2026年3月期－ 2028年3月期累計
事業成長投資	• 塗装システム事業のドライ加飾システムおよびカーボンニュートラル向け研究開発投資 • インドの連結子会社 Nicomac Taikisha Clean Rooms Private Limitedによるクリーンルームパネル生産能力の増強	17億円	65億円
キャピタルアロケーション	• 北米グループ会社のEncore Automation LLCによる北米オートメーション会社のM&A実施。人材リソースおよび技術・顧客基盤の強化 • 重点注力市場における戦略的出資	41億円	220億円
デジタル成長投資	• BIMを始めとする現場DXアプリケーションの開発・運用検証 • グループ会社間の効率的なコミュニケーション環境実現のための統一プラットフォームの整備（構築中）	16億円	70億円
成長のための人的投資	• デジタル人材育成のための国内社員向けDXリテラシー教育の実施 • グローバル人材の早期育成を目指す海外トレーニー制度の運営 • 国内外での次世代リーダー育成のための講習実施	3億円	25億円

中期経営計画期間　3か年合計

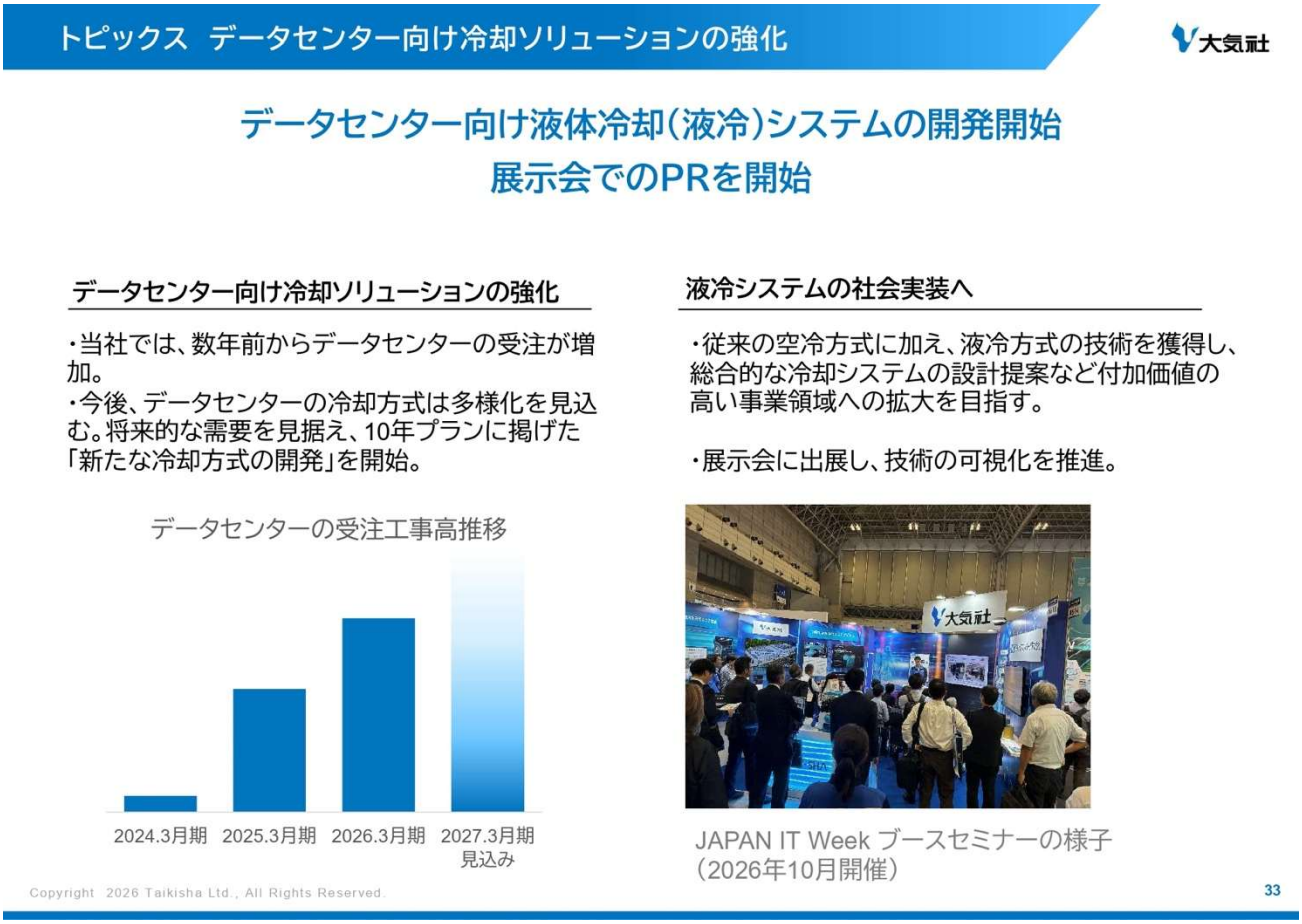
380億円

Copyright 2026 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

32

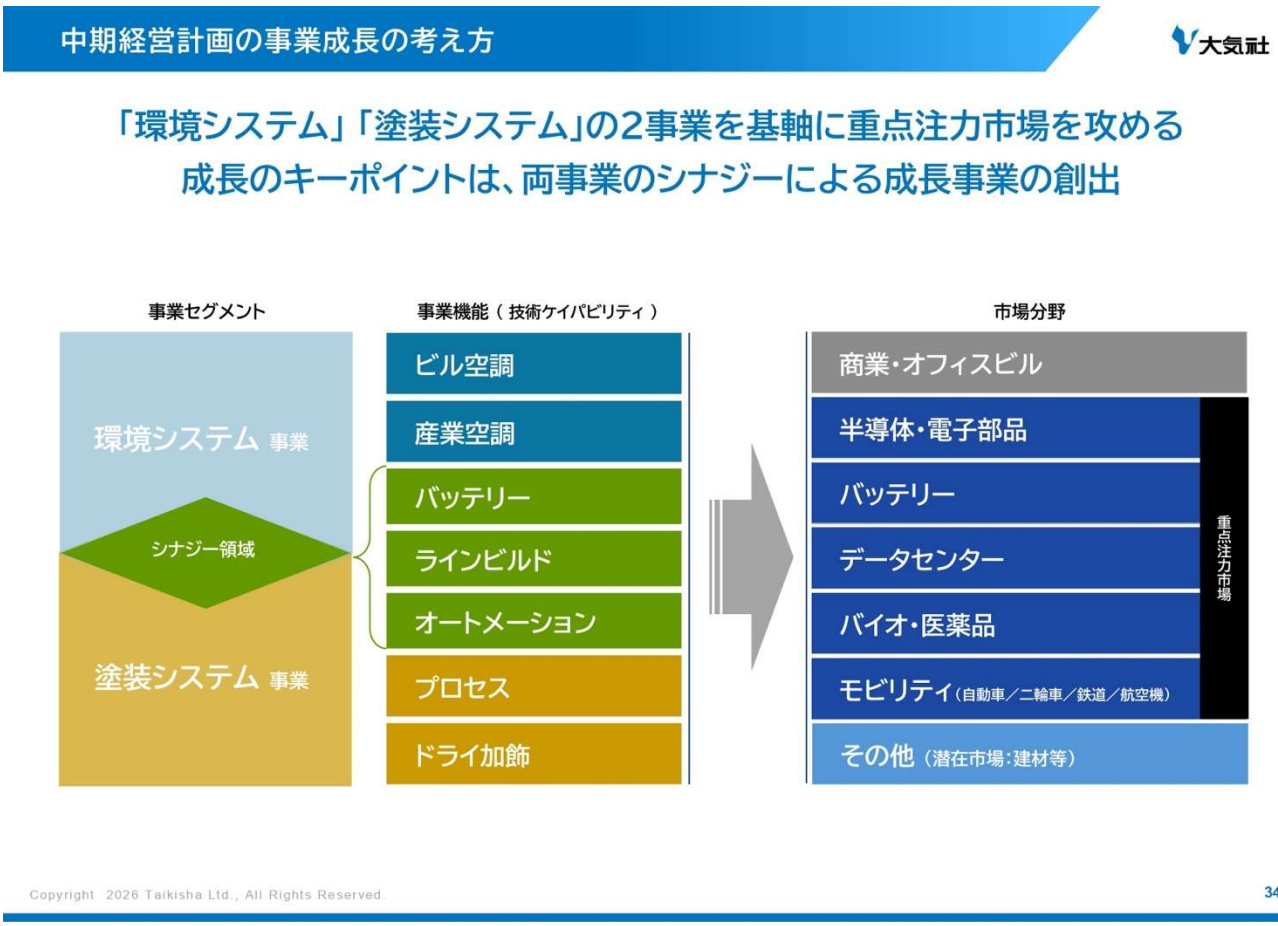
本中計の投資計画につきましては、事業成長投資では塗装システム事業のドライ加飾システムの研究開発として、歩留まり等のプロセス改善を継続して実施してまいります。

また、キャピタルアロケーションの施策として、重点注力市場の領域拡大および既存事業とのシナジー創出を見据え、スタートアップ企業に対する出資を行いました。



中計進捗のトピックスとして、データセンター向け冷却ソリューションの強化についてご紹介します。

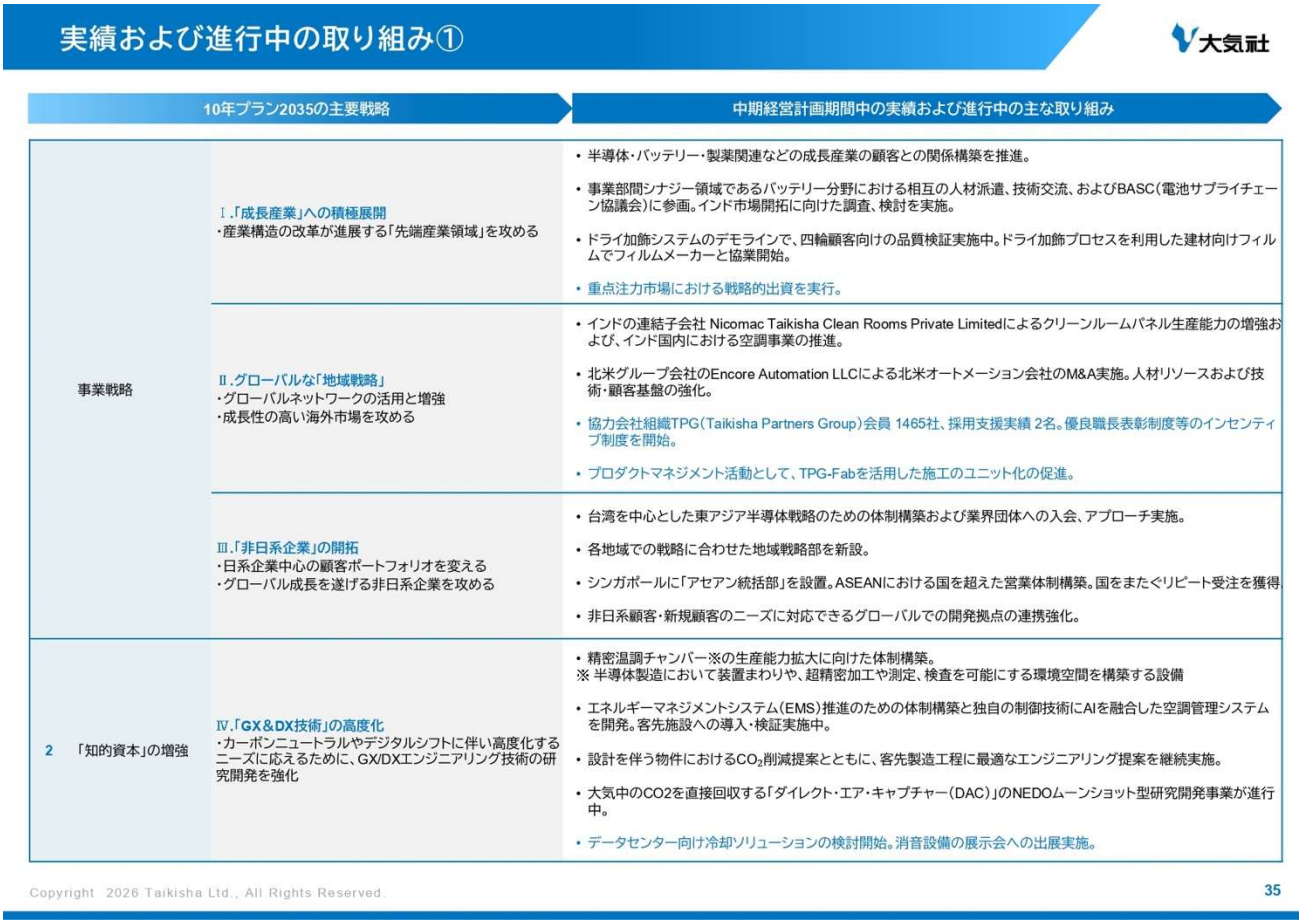
今後さらなる成長が予想されるデータセンター市場における事業領域の拡大のため、10 年プランに挙げた新しい冷却方式の開発として、液体冷却システムの開発を開始しました。当社は数年前からデータセンターの受注を増やしております。今後は、従来の気流で冷やす空冷方式の設計・施工に加えて、液冷方式の技術を獲得することで、総合的な冷却システムの設計提案など、付加価値の高い事業領域への拡大を目指しております。そのために、パートナー企業とのアライアンス構築を積極的に検討していきます。



トピックスに関連してご質問を頂く機会が多い現中期経営計画の事業成長の考え方に関して、改めてご紹介いたします。

環境システム事業と塗装システムの 2 事業を基軸に、重点注力市場において、両事業のシナジーによって、成長事業を創出する方針を挙げております。今期は重点注力市場であるデータセンター市場において、塗装システム事業でも大型ユニット製造および、据え付けノウハウの強みを生かして案件を受注するなど、徐々に成果が見え始めております。

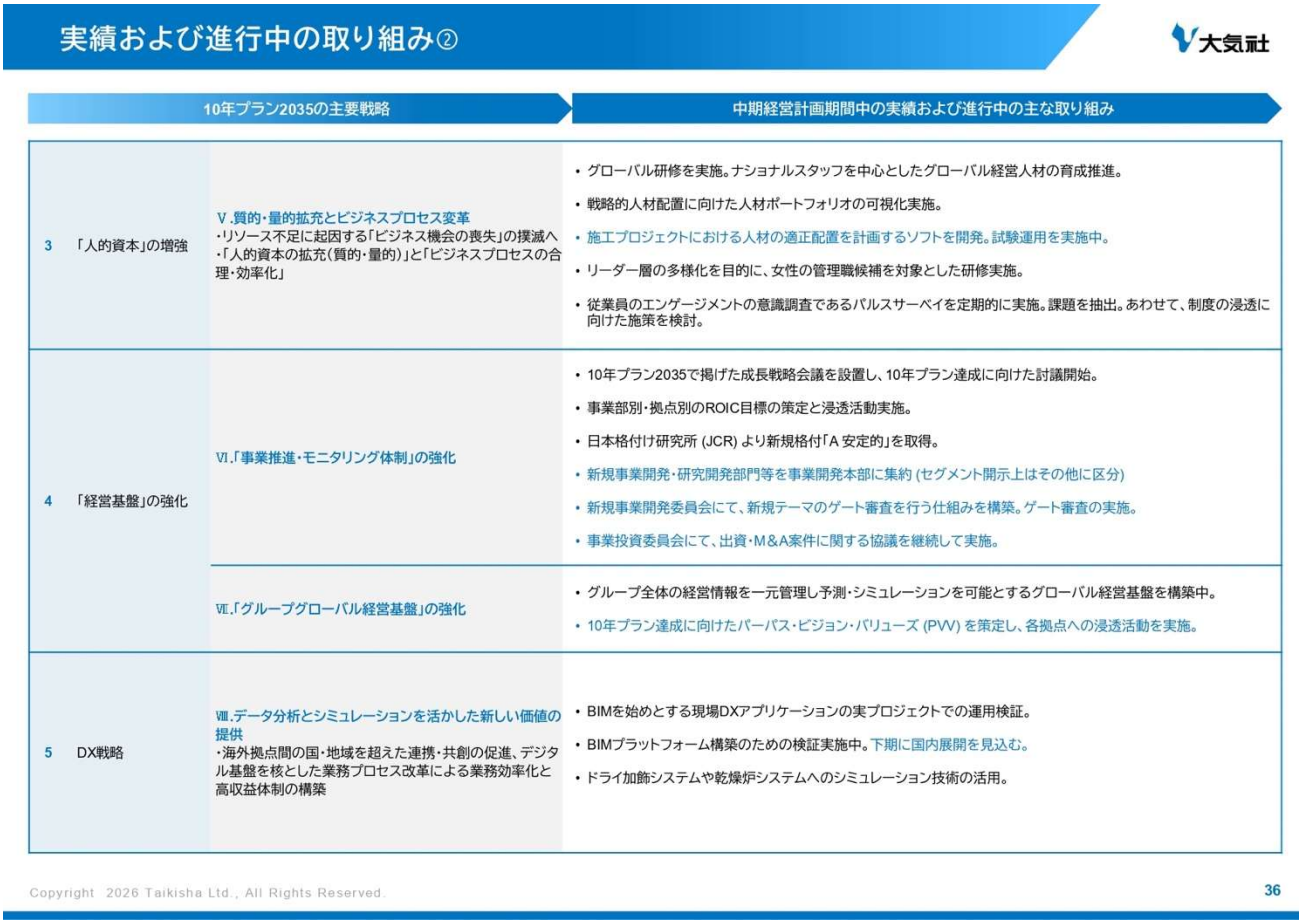
現中計策定から 1 年半の間で、モビリティ・バッテリー・データセンター市場で、共同施工案件など、環境システム事業と塗装システム事業の共同の取り組みが進みました。今後もこのような取り組みを他の市場分野にも展開してまいります。



当ページからは、その他の本中計の実績、進行中の主な取り組みについてご説明いたします。

グローバルな地域戦略として、日本国内では前中計で組織した協力会社組織 TPG、Taikisha Partners Group 会員数拡大および採用支援を実施しております。優良職長などのインセンティブ制度も開始し、国内市場での施工能力確保に取り組んでおります。また、TPG-Fab を活用した施工のユニット化の取り組みを継続しており、さらなる生産性向上を目指しております。

知的資本の増強としましては、データセンター向け冷却ソリューションおよび消音設備の展示会への出展を実施し、認知を広げる取り組みを実施しております。



続きまして、人的資本の増強としては、施工プロジェクトにおける人材の適正配置を計画するソフトを開発、試験運用を実施しております。

経営基盤の強化といたしましては、組織改編を行い、新規事業開発、研究開発部門を、事業開発本部に集約いたしました。事業投資委員会では、出資・M&A 案件に関する資本コストを意識した協議を、継続して実施しております。最後に、DX 戦略としましては、BIM での見積もり検証にめどが立ち、下期に国内展開を見込んでおります。

政策保有株式

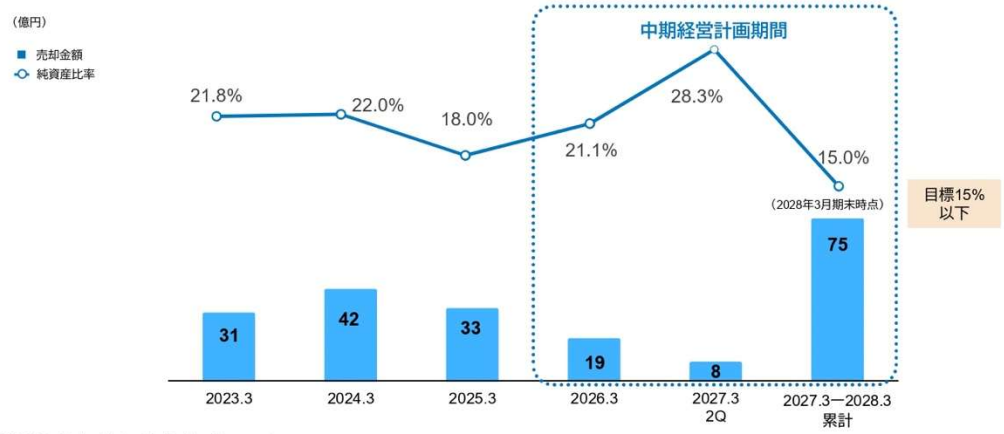
大気社

2026年9月末時点の純資産比率は、28.3%
2028年3月末時点で純資産比率15%以下に向け削減予定

	前中期経営計画期間 実績			中期経営計画期間 計画		
	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期（実績）	2027年3月期 2Q（実績）	2027年3月期－2028年3月期（予定）
売却金額	31億円	42億円	33億円	19億円	8億円	75億円*
純資産比率	21.8%	22.0%	18.0%	21.1%	28.3%	15%以下

※ 売却金額は2026年3月末時点の株価による計算値

政策保有株式 実績・予想推移

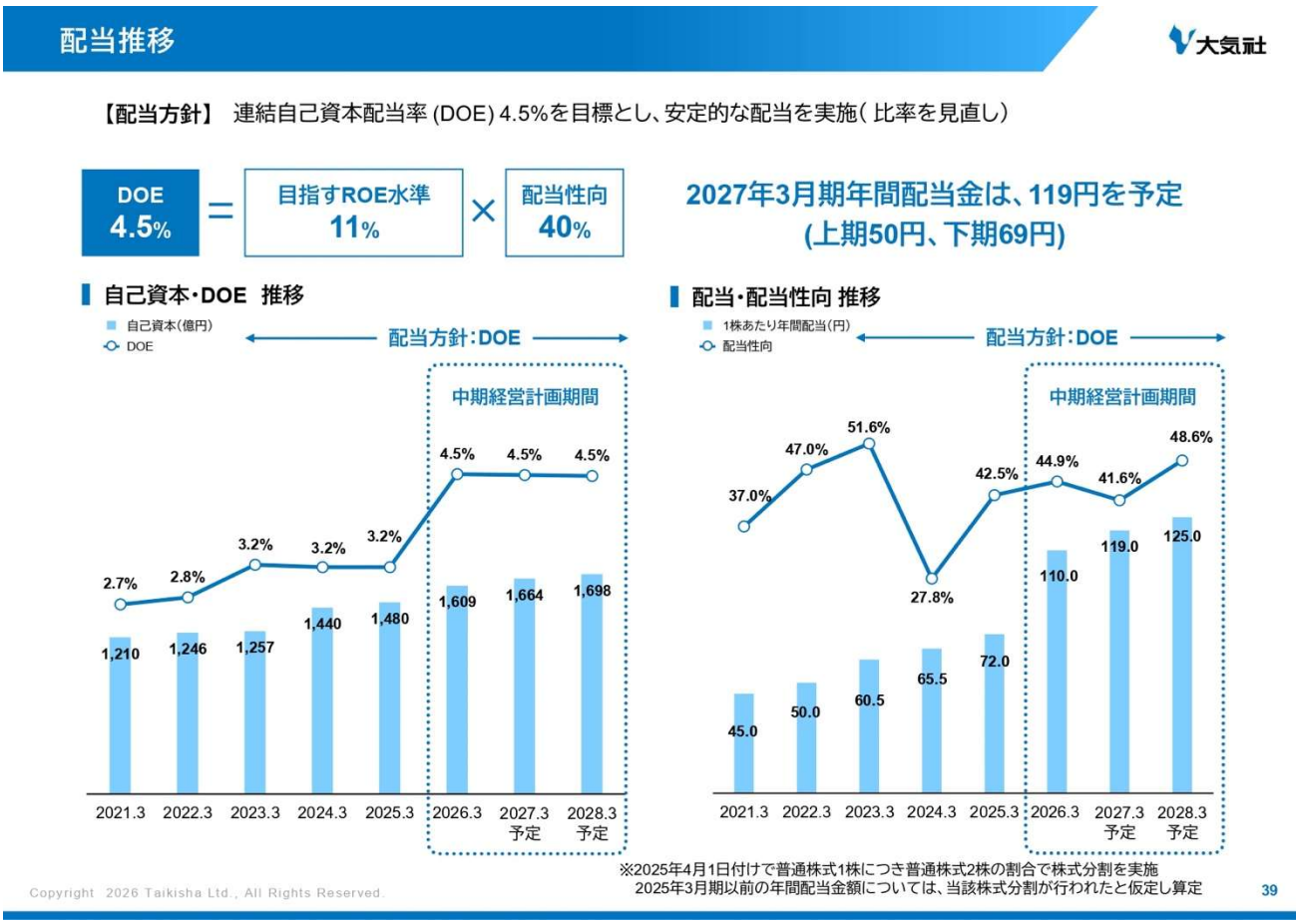


Copyright 2026 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

37

当ページは、本中計の政策保有株式の削減計画について記載しております。

上期中にも売却を進めておりますが、株価上昇の影響もあり 2026 年 9 月末時点の純資産比率は、28.3%となりました。2028 年 3 月期末時点には 15%以下になるよう、順次削減を進めてまいります。



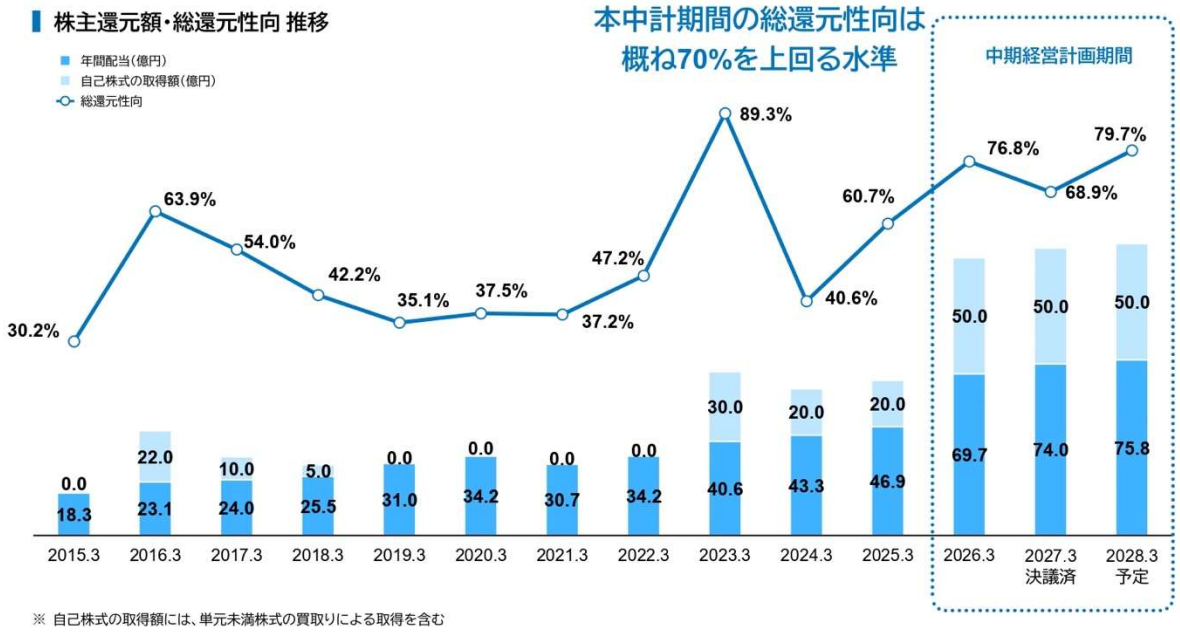
次に、株主還元についてご説明いたします。

当ページは、配当について記載しております。2023 年 3 月期より、DOE による配当目標を挙げております。DOE 水準については、収益性向上を踏まえ、2026 年 3 月期から DOE4.5%での配当を実施しております。2027 年 3 月期の年間配当額は 119 円を予定しております。

株主還元額と総還元性向の推移

大気社

【自己株式取得の方針】 資本効率の向上と機動的な財務政策の実現を目的として、中期経営計画期間で自己株式の取得を年間50億円実施する計画
(2027年3月期は、2026年8月7日の取締役会において50億円の取得を決議済み)



※ 自己株式の取得額には、単元未満株式の買取りによる取得を含む

Copyright 2026 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

40

当ページでは、自己株式の取得を含む総還元について記載しております。

薄いブルーの棒グラフが自己株式の取得額の推移を示しております。今期の自己株式取得に関しては、従来の方針どおり、年間 50 億円の取得を 8 月に決議しております。本中計期間の総還元性向は、おおむね 70%を上回る水準を見込んでいます。配当と自己株式の取得合わせて、より高い水準の株主還元を目指してまいります。

以上をもちまして、私どもからの説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。

質疑応答

濱川 [Q]：JP モルガン証券の濱川です。ご説明どうもありがとうございました。私から 2 点お願いいたします。まず 1 点目が、海外の塗装システムでの損失のところは、もう既に終わったプロジェクトなのか、まだプロジェクトとしては今後もそういう意味だと続くのか、どういった国やプロジェクト、詳細難しいかもしれないですけれども、自動車メーカーなのかその他なのか、このあたりの損失の中身と、追加損失のリスクや終わるタイミングについて補足で教えていただければと思います。よろしくお願いいたします。

福永 [A]：塗装システム事業部長、福永です。ご質問ありがとうございます。ご質問の、塗装システム事業部の採算悪化の件ですが、まず今回のこの採算悪化の主要な要因となったのは、メキシコにおいても初めての、建屋を含むフルターンキー方式で受注したプロジェクトでございます。お客様は自動車メーカーでございます。それで、この当該プロジェクトにつきましては、既に工事は完了いたしておりまして、下期の完成工事高への影響はございません。ということで、これ以降の、契約上のセールスコスト等につきましては、必要な評価を完了しているというような状況でございます。以上、回答申し上げました。

濱川 [Q]：ありがとうございました。2 点目なんですけれども、データセンター絡みのところでご質問させてください。まず今期、上期での塗装関連のデータセンターの受注の中身を教えていただければというところと、あとはデータセンターの受注が上期 75 億ということで、国内・海外で分けると、こちら、海外でも受注があるのか、足元、データセンター、米国からその他地域へのシフトみたいなところも探っている中で、御社がアジア地域でデータセンターをやっているのであれば、そのあたりの好影響もあるのか、このあたり、データセンター絡みのところで教えていただければと思います。よろしくお願いいたします。

福永 [A]：データセンター絡みの受注につきましては、まず国内の案件でございまして、特に液冷システムというような形のデータセンター でございます。このプロジェクトは、液冷システムでございまして、特に配管の内面処理技術、あとは大型ユニット化をするといったような要求がございまして、それについて、私ども塗装システム事業部のほうで担当しているというような状況でございます。海外につきましては、一部東南アジア等からの引き合いはございまして、環境システム事業部と私ども塗装システム事業部とシナジーで現在プロジェクトを進行しているような状況でございます。以上でございます。

濱川 [Q]：ありがとうございました。塗装の今のデータセンターのところは、従来のエンジニアリング系の、環境システムと似たような利益率を取れているという理解でよろしいでしょうか。

福永 [A]：そう理解していただいて結構でございます。

濱川 [M]：ありがとうございました。

川嶋 [Q]：日興証券の川嶋です。ご説明ありがとうございました。まず 1 問目は、受注高について。今回国内環境システム、空調のとこで増額されていますが、これはキャパシティー上どこまで対応できるのか。例えば国内外の人の入り繰りですとか、あるいは産業とビル空調でどういった割り振りをする、それによってさらに伸ばせるのかどうか、この受注の、今後の伸ばす余地について教えてくださいというのが 1 つ目です。

祖父江 [A]：環境システム事業部長の祖父江でございます。ただ今のご質問に対して回答を申し上げます。今、受注に関しましては、国内・海外、施工キャパを見ながら対応しているところでございまして、今環境システム事業部、塗装システム事業部、両方の人員と、あと海外の人員も踏まえながら、受注キャパを捉えながら対応しているというような状況でございまして、対応できる範囲内で対応しています。以上、回答申し上げました。

川嶋 [Q]：そうしますと、割と上限に近い状況で、なかなかさらには増やしにくいということでしょうか。

祖父江 [A]：今のところは、今回の受注に関しては一応上限というような形で組んでいます。

川嶋 [Q]：ありがとうございます。あともう一点、総利益率、利益率に関してで、今後を考えると、来期は塗装のマイナスが消えるとすると、連結では利益成長を期待できるところですが、こちらも環境システムの採算性はさらに上がる余地があるのか、今回もそれなりの増額ということで、環境は良いほう、お客様の許容度からすると上がりにくくなるというような声も他からは聞くわけですけど、ここの環境システムの利益率の、同じく伸ばしていける余地をどんなふうに見てらっしゃるか教えていただけますか。

祖父江 [A]：環境システム事業部でのお話としましては、近年、需給の逼迫（ひっぱく）によって、受注は良い状況でいただいているということで、引き続き利益率も確保はできるかなというふうに思っています。受注物件に関しましても、利益改善に努めまして、さらなる利益を求めて対応していきたいというふうに思っています。以上、回答申し上げました。

川嶋 [M]：どうもありがとうございました。

寺岡 [Q]：大和証券の寺岡です。ご説明ありがとうございました。では、塗装システムについて 2 点お願いいたします。まず 1 点目ですけれども、可能な範囲で、今回のメキシコの案件の工事遅延、その背景、原因はどういうものがあったのかというところを一応把握しておきたいと思いまして、可能な範囲で結構なので補足いただければ助かります。よろしくお願いいたします。

福永 [A]：塗装システム事業部、福永でございます。ご質問ありがとうございます。ご質問のメキシコの案件においての遅延に関する原因でございますが、主には、建屋を含むフルターンキー方式での受注と、先ほど申し上げましたが、そのうち建屋の工事の進捗の遅れが主な原因になっております。以上、回答申し上げました。

寺岡 [Q]：これ、建屋は御社がやられたということでしょうか。

福永 [A]：本プロジェクトでは、建屋を含んだ設備も含めて、フルターンキー方式で受注したプロジェクトでございます。

寺岡 [Q]：建屋の遅れはなぜ生じたのかも教えてください。

福永 [A]：一部設計の遅れ、あと、施工中における手戻りということで、やり直しだとか、そういったものが期中に発生したというところが原因でございます。

寺岡 [Q]：ありがとうございます。あと 2 点目なんですが、今回塗装の利益の修正をされておりますけれども、下期の見通しも期初計画から引き下げられてらっしゃるのかどうか、その確認と、併せて、来年度考えた場合に、今回の一過性の損失を除いたベースで、今後利益を向上させていけるかどうか、このあたりについての見通しを教えていただけますでしょうか。よろしくお願いいたします。

福永 [A]：まず上期までには、先ほど申し上げた案件、あと比較的採算性の低い案件がおおむね完了したという状況です。今後下期にかけては、案件ミックスが改善するというような見通しを立てております。今後、来期に向けては、こういった不採算性の案件が完了しているという状況もございまして、利益改善には動いていくというふうに見ております。以上でございます。

寺岡 [Q]：その不採算性がなくなる反動増は分かるのですが、それを除いたベースで、ベースが改善させていけるかどうか、そのあたりについてはいかがでしょうか。

福永 [A]：それを除いたベースで改善は進んでいくというふうに思っています。

寺岡 [M]：分かりました。ありがとうございました。

八木 [Q]：ご説明ありがとうございました。モルガン・スタンレーMUFG 証券の八木と申します。では私も質問 2 点お願いします。1 点目が、もう一回塗装のところの確認として、今期の下方修正について、先ほど説明いただいたメキシコの要因がどれぐらいのインパクトかというところと、他の要因のインパクトがどれぐらいかというところで、他の要因もあると思いますので、改めてその背景についてお伺いしたいのと、これら案件がなくなったことによって、来期に向けての考え方なんですけれど、来期は今のお話でいくと、ベースがしっかり上げていけるというところの中で、来期の利益率は今期の期初出されていた経常利益でいくと 3.8%ぐらいがしっかり見込めるのか、少し来期の目線の考え方についても併せて教えていただければと思います。今のが 1 点目になります。

2 点目が環境システムのところの来期に向けた営業利益率のところの考え方なんですけれど、今期、今会社計画、営業利益率、経常利益率、共に上げていただいていると思うんですが、来期、産業空調も含めて売上が進捗する中で、しっかりこの営業利益率は一段とそれに伴って上昇が期待できるのか、少し来期に向けた利益率の環境システムのほうの考え方を教えていただければと思います。よろしくお願いします。

福永 [A]：福永でございます。ご質問ありがとうございます。まず下方修正の件ですが、メキシコの案件につきましては、この下方修正の中の約 3 分の 2 を占めてるというような形になります。残りの 3 分の 1 はどうかということですが、これにつきましては、今期受注をしております自動車生産におきまして、新たな車の作り方を採用した生産技術のプロジェクトがございまして、当社といたしましても初めて対応する工事であったというところから、当初予定していた収益改善が十分に進まなかったというようなところが残りの原因ということになります。

それとあと 2 つ目のご質問ですが、期初見込んでおりました経常利益率、来期はどうなるかという点は、来期に向かいましては、今期、期初 3.8%と先ほどおっしゃいましたけども、それ以上の経営改善が進むというようなところで見ております。以上でございます。

八木 [Q]：ありがとうございます。今、一点、そうすると、来期の改善要素で 3.8 パー以上になるのが、不採算がなくなるのと何か、先ほどもご説明いただいていますが、プラスで明確にこれが寄与するというものがあれば一点だけ補足いただけますか。

福永 [A]：主に寄与するものにつきましては、先ほども少し話題がありましたけども、一つは環境システム事業部とのシナジー案件。それとあとは、採算性が見込まれる案件が来期の局所案件という形で見込まれておるというのが主な要因になります。

八木 [M]：ありがとうございます。

祖父江 [A]：環境システム事業部の祖父江でございます。ただ今の、来期に向けた営業利益率というご質問だと思いますけど、その点についてご回答を申し上げます。先ほどいろいろな質問がございまして、受注環境ということで、来期に向けても同等の利益率は確保できるというふうに思っております。今後の物件の内容での利益改善で、さらなる利益改善を進めていこうというふうに思ってます。ですが、来期は手持ち完工が目いっぱいということで、過去最高ということで、今の受注のほうはもう上限値に近いかなというような形を踏んでますが、利益面においてはさらに改善を図っていこうというようなことを考えております。以上、回答申し上げました。

八木 [M]：分かりました。ありがとうございました。

中川 [Q]：ご説明ありがとうございました。みずほ証券の中川です。私からは 1 問お願いいたします。重ね重ねで恐縮なんですけれども、塗装システムの今回の海外での遅延損害金が発生した案件につきましては、建屋の工事も含まれていたということなんですけども、他の国ですとか地域においても、塗装システムのラインの構築以外に、そういった建屋の工事も含まれている案件というものが多いというふうに理解しておけばよろしいでしょうか。また、工事が遅延することによって損害が発生するという、そういったリスクというのも大きいのかどうかというところについても確認させていただければ幸いです。よろしくお願いします。

福永 [A]：ご質問ありがとうございます。福永でございます。まず海外含めて自動車案件につきましては、今後大型化という形が見込まれているというところでございます。ただ、この大型化する中に、建屋が含まれるケースがどれほど出てくるかっていうところなんですけども、この建屋等設備も分離発注という形は引き続き続くものと見ておりまして、建屋を含んで発注するという形は、今後そう増えてはいかないのではなかろうかというふうに見ております。建屋も含んだ案件があった場合、当然そういったリスクも引き続き見込まれるというところもありますので、そういったところは、事前に私どもリスク評価をしながら、受注判断を進めていきたいというふうに考えております。以上でございます。

中川 [Q]：基本的に遅延する場合には、損害金のリスクというものはどの契約にもあるという理解でよろしいでしょうか。

福永 [A]：基本的には全ての契約について、遅延賠償の契約情報は含まれるというふうな理解をしております。

中川 [M]：大変よく分かりました。ありがとうございます。

質問者 [Q]：ご説明いただきまして、誠にありがとうございます。では私のほうから 2 点お願いいたします。1 点目が ROE の考え方についてお伺いできればと思います。今後業績目標を見直され

るご予定かと思いますが、ROE につきましても今後見直す余地があるのか、また今後さらに ROE の目標数値を、目線感をさらに上げていける余地があるのかというのをお伺いできればと思います。

また株主還元にも積極的に取り組まれていらっしゃるかと思いますが、同業他社さんと比べても ROE の水準に関してはまだ改善の余地があるかと思うのですが、今後の改善に向けてどういった議論がなされているのか、こちらについてお伺いできればと思います。1 点目、よろしくお願いいたします。

長田 [A]：社長の長田です。ご質問ありがとうございます。こういう資本コストを意識した経営ということは私ども、どうしても KPI としても非常に重要だと思っておりますし、ROE の改善のために、まず収益性を上げることはもちろん、あと適正資本ということは常に意識しております。あとは、私どもは海外展開していまして、海外に数多くの関係会社がございますので、まずそれぞれを、ROE だけではなく、あとは ROIC 経営を入れて、重要な KPI をモニタリングしていくということを進めております。以上、ご回答申し上げました。

質問者 [Q]：ありがとうございます。では 2 点目でございますが、技術的なところでご教示いただければと思います。33 ページ目のデータセンター向けの液冷システムについてでございますが、データセンターの空調方式について、空冷式から例えば液冷方式のほうに今後本格的に移り変わっていくタイミングが来るのか。また、もしそういったタイミングが来るとするならば、どれくらいの時間軸を見ておくべきなのか、こちらについてご教示いただければと思います。よろしくお願いいたします。

長田 [A]：長田です。ご質問ありがとうございます。液冷システムもいくつかございますけど、私どもその先を見ていろいろ投資等をしています。従来の空調、空冷っていうのがなくなるわけではないと思っていますので、引き続きもちろんやっていきますし、あと、一部液冷の部分で、塗装システム事業部の得意とする分野がございますので、そちらのほうは引き続き需要はあると思っています。次世代の液冷という意味で、少しそちらの開発のほうを進めているということですが、これがいつ頃になるかという、これについては技術レベルと、あとはお客様の需要として省エネにかなり寄与するというふうに考えておりますので、そういう意味では、開発は割とここ 2 年以内にはできるかと思いますが、一般的にそのシステムを認知してもらって採用してもらうというのにも 2 年前後になるのではないかというふうに考えております。ご回答申し上げました。

［了］

将来の見通しに関するご注意事項

本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。またこれらの情報が、今後予告なしに変更されることがあります。

従いまして、本情報および資料のご利用は、他の方法により入手された情報とも照合・確認し、ご利用者の判断によって行ってくださいますようお願いいたします。

本資料ご利用の結果、生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

本資料に関するお問合せ先

株式会社大気社　　経営企画本部　経営企画部　IR 課

TEL：03-5338-5052　　FAX：03-5338-5195